

岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会議事録

1 日時

令和元年 8 月 7 日（水） 10 : 00 ~

2 場所

岡崎市役所 西庁舎 5 階 502 号会議室

3 評価委員

(1) 出席者

委員長：愛知産業大学学長 堀越 哲美 氏

委員：日本政策投資銀行

業務課長兼企画調査課長 小沢 良平 氏

委員：名城大学理工学部教授 松本 幸正 氏

(2) 欠席者

委員：名古屋大学教授 福和 伸夫 氏

4 事務局

総合政策部企画課副課長 山本 英樹

総合政策部企画課係長 鈴木 昌幸

総合政策部企画課主事 稲石 匠

総合政策部企画課主事 藤井 聖士

都市整備部都市計画課副課長 吉居 誉治

都市整備部都市計画課係長 鈴木 智晴

都市整備部都市計画課主任主査 牧尾 誠

都市整備部都市計画課技師 尾崎 秀彰

市民生活部防災課係長 山田 竜

市民生活部防災課主事 鳥林 錠司

消防本部消防課副課長 亀井 龍哉

消防本部消防課主任主査 宮碕 孝直

消防本部消防課主査 廣瀬 大輔

建築部建築課係長 鈴木 淳永

建築部建築課技術員 林 弘成

5 傍聴人

なし

6 委員会次第

(1) 開会

委員長選任

(2) 議事

「災害リスク情報を活用した防災都市づくり」計画事後評価

(3) 閉会

7 配布資料

(1) 資料1

次第、評価委員会設置要綱、座席表

(2) 資料2

「災害リスク情報を活用した防災都市づくり」計画資料

8 会議要旨

(1) 委嘱状の配布

(2) 本委員会は、「岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領」第2条に基づき、公開となることの説明

(3) 委員長の選出、堀越委員を委員長に選出

(4) 議事（事務局説明、質疑応答）

9 議事内容

堀越委員長	「災害リスク情報を活用した防災都市づくり」計画の事後評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（「災害リスク情報を活用した防災都市づくり」計画の指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
堀越委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
堀越委員長	今後の方針として、耐震性貯水槽の整備を進めていくという説明があったが、具体的な方針があれば教えて欲しい。
事務局	岡崎市は液状化危険度の高い地域があるのでその地域を中心として、未充足地域に対して整備を行っていききたい。

松本委員	目標値はすべて達成できている。ただ今後はアウトカムで目標設定をすると良いと思う。
事務局	計画目標を設定する際の参考にします。
松本委員	最近の雨もそうだが、異常気象による災害が多い。最近では、避難スイッチを地区ごとで決めて、みんなで避難しようというのを決める取組みがあるが、防災マップの作成は、避難スイッチに繋がっていくのか。
事務局	<p>防災マップの作成が、町での防災意識を高めるきっかけになっている。これは緊急時に役に立つというよりは、普段から見える場所に掲載して、逃げる経路と場所を確認するものとして作成をお願いしている。</p> <p>一方で避難スイッチは、市民が今逃げなきゃと命の危険を感じて、「ポン」とスイッチが入る瞬間のことである。これは出前講座や防災訓練を通じて、どういう状況になったら逃げなければならないのかというのを伝えていかなければと思っている。</p>
松本委員	<p>今までもハザードマップの作成や避難勧告、避難指示等の災害情報は出されていると思うが、避難が行われたい。それは、いろんなバイヤスが入って大丈夫だと思っているのだと思うが、それを防ぐために避難スイッチを各地区で決めて、実際に危なくなったら、ちゃんと逃げられるように、そういうふうにしフトしてきているので、防災マップを作ることは第一歩として良いが、次のレベルに上がっていくと、皆さんの命を守ることができると思う。せっかく防災に対する気運が高まっているので、より気運を高める取組みを検討してもらいたい。</p>
事務局	引き続き、検討を進めます。
小沢委員	<p>目標はすべて達成されており、良い。防災マップの整備、防火水槽の耐震化、防災倉庫の整備が進み、災害時における体制ができたのではないかと思う。</p> <p>避難訓練はやられていると思うが、実際に避難をする訓練は行われているが、避難した後の復旧訓練を今後の方針で盛り込んでもらえると良いと思う。特に先行検討地区の矢作地区で取り組んでいただきたい。</p> <p>実際に災害が起きた時の災害対策本部になる市役所とも連携して、市の職員と市民で同時に訓練ができると、減災につながると思うので、今後の方針で具体化していくのが良いと思う。</p>

事務局	引き続き、検討を進めます。
堀越委員長	防災マップの質についてだが、地区によってさまざまだと思うが、同じレベルにするのは難しいと思うが、地区に応じて必要な指導はするのか。
事務局	矢作地区や六ツ美地区のような矢作川沿いは液状化による被害想定が高いが、確実に多くの避難者が出てくる。そうなると防災倉庫の中にあるものだけでは、避難者の数をまかなえないので、家庭での備蓄を進めてくださいなど、自助、共助を高めていけるように周知していきたい。
松本委員	避難訓練の話だが、乙川周辺のかわまちづくりでキャンプをやっていると思うが、その中で防災キャンプの体験がある。それでいざというときの生活をしようということでキャンプに来られている。これは良い取り組みなので、連携していただきたい。その時に防災食を食べるなど防災教育ができると良い。防災備蓄倉庫はだいぶ整備されてきて良いと思うが、防災備蓄倉庫までの経路の点検は行われているのか。
事務局	それは、市民が住んでいる家から倉庫までのことか。
松本委員	そのとおり。
事務局	町の防災マップを作るときに、実際に歩いていただき、ブロック塀がどこにあるのかや、アンダーパスがあって洪水の時は通れないなどをマップに盛り込んでもらうようにしている。それが避難経路の確認、反映につながっている。
松本委員	実際に避難訓練をしてみると、「違う経路の方がよかった」や「荷物があつたらここは無理だ」などのことが見つかることがある。ぜひ確認しながら、マップを作っていただきたい。ブロック塀は今日の新聞に載っていたと思うが、愛知県はまだ対策ができていないが、岡崎市は大丈夫か。
事務局	ブロック塀ですか。
松本委員	学校のブロック塀の対応がまだできていないことだが。
事務局	去年点検を行っている。そこで撤去の必要があるものは、撤去を始めていると思う。
松本委員	どれぐらい撤去できたのか。
事務局	去年の段階で終了しているはずである。確認する。
松本委員	民家はどうか。
事務局	地域でやっていただく。

10 結果

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。